和服に関する支出

－家計調査結果（二人以上の世帯）より－

日本では２月は「如月（きさらぎ）」とも呼ばれますが、この語源は厳しい寒さに耐えるため重ね着をするという意味の「衣更着」であるとの説があります。暖房器具がまだない中、着物を重ね着して寒さに耐えていた生活が思い浮かばれます。そこで今月は、和服に関する支出のうち、「和服※1」及び「被服賃借料※2」について二人以上の世帯の結果から見てみましょう。

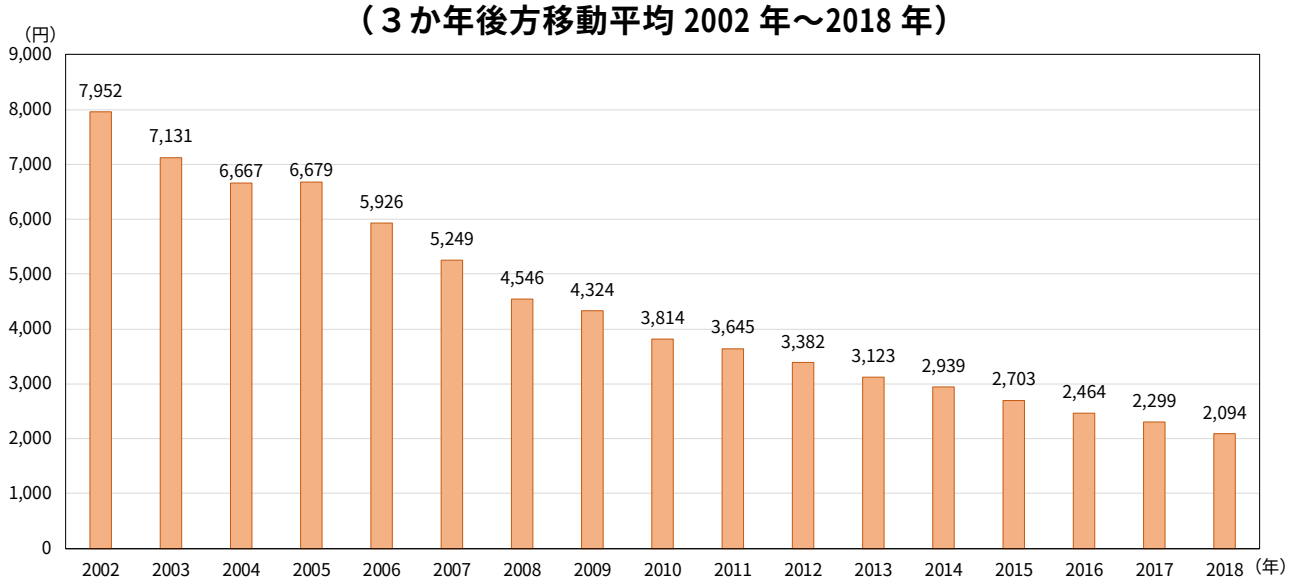
※１「和服」には浴衣、振り袖、はかま、甚平、和装コート、羽織、お宮参り着物、和服用の帯などの購入に係る支出が含まれます。

※２「被服賃借料」には成人式などのための貸衣装代などが含まれます。

「和服」の支出金額は減少傾向

「和服」を含む「被服及び履物」については、2002年の195,110円から、2018年の137,451円と約３分の２になりましたが、「和服」の１世帯当たり支出金額の推移をみると、2002年は7,952円であったのに対し、2018年は2,094円と約４分の１になっており、「和服」の減少割合が大きいことがわかります（図１）。

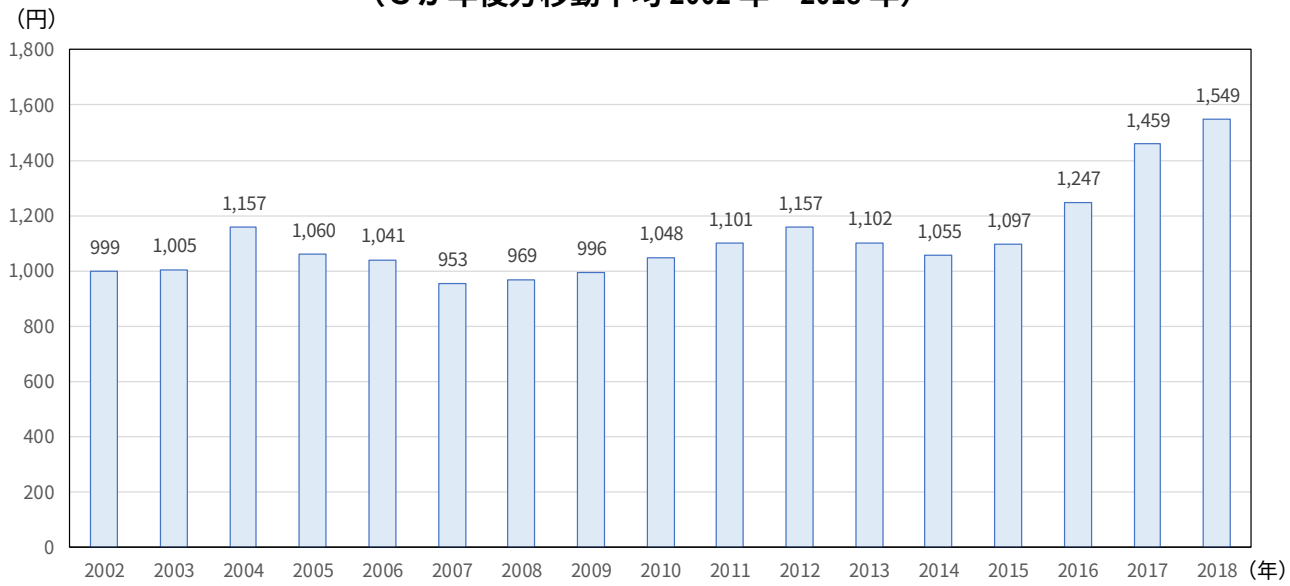
図１　「和服」の１世帯当たり年間支出金額の推移
（３か年後方移動平均 2002 年～2018 年）



「被服賃借料」の支出は近年増加傾向

次に、「被服賃借料」の１世帯当たり年間支出金額の推移をみると、2002 年は 999 円であったのに対し、2018 年は 1,549 円と約 1.6 倍となっており、近年は増加傾向にあることがわかります（図２）。

図２　「被服賃借料」の１世帯当たり年間支出金額の推移
（３か年後方移動平均 2002 年～2018 年）



「和服」及び「被服賃借料」の支出は50～59歳の世帯が最も多い

最後に、世帯主の年齢階級別に「和服」及び「被服賃借料」の年間支出金額を 2002 年と 2018 年についてみると、どちらの品目のいずれの年次においても 50～59 歳の世帯が最も多くなっています。また、2002 年に比べ 2018 年は、「和服」の支出金額は全ての年齢階級で減少しています。一方、「被服賃借料」の支出金額は 69 歳以下の全ての年齢階級で増加しており、特に 40～49 歳の世帯及び 50～59 歳の世帯で大きく増加していることがわかります（図３、４）。

図３　「和服」の世帯主の年齢階級別
１世帯当たり年間支出金額
（３か年後方移動平均 2002 年、2018 年）

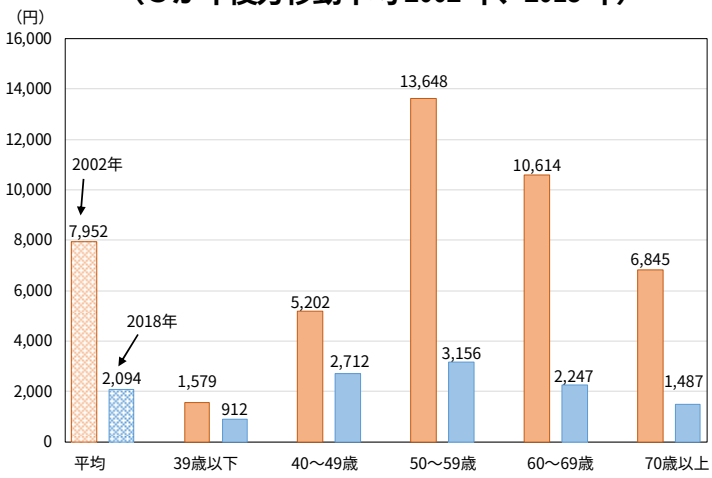
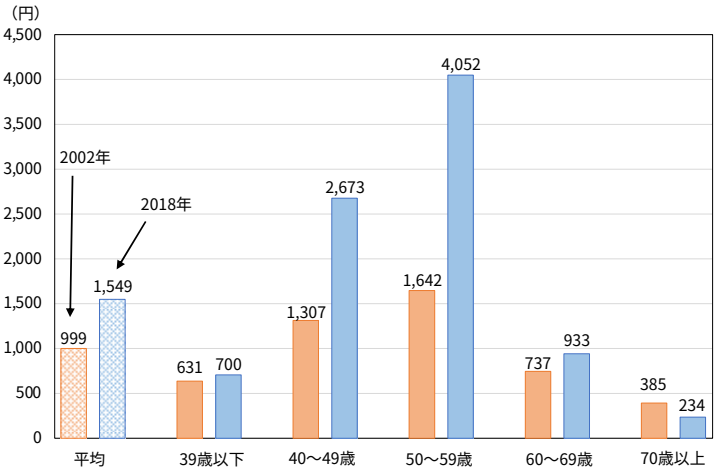


図４　「被服賃借料」の世帯主の年齢階級別
１世帯当たり年間支出金額
（３か年後方移動平均 2002 年、2018 年）



「家計調査通信第552号（2020年２月15日発行）」より